

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村山 一弥

<b>事業名</b> ：北海道縦貫自動車道 <small>しべつけんぶち なよる</small> 士別剣淵～名寄	<b>事業区分</b> ：高速自動車 国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 北海道開発局												
<b>起終点</b> ：自：北海道 <small>しべつ</small> 士別市南町東 至：北海道 <small>なよる</small> 名寄市字豊栄	<b>延長</b> ：24.0km													
<b>事業概要</b> 北海道縦貫自動車道は、函館市を起点とし、室蘭市、札幌市、旭川市、士別市、名寄市等を経由して稚内市に至る延長約681kmの高速自動車国道である。 このうち士別剣淵～名寄は、高速ネットワークの拡充による道北圏と道央圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、物流の効率化等の支援を目的とした延長24.0kmの事業である。														
H15年度事業化      H一年度都市計画決定      H19年度用地補償着手      H19年度工事着手														
<b>全体事業費</b> ：約337億円 <b>事業進捗率</b> ：57% <b>供用済延長</b> ：0.0km														
<b>計画交通量</b> ：3,600台/日														
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"><b>B/C</b>：</td> <td style="width: 20%;"><b>総費用</b>：</td> <td style="width: 20%;"><b>総便益</b>：</td> <td style="width: 20%;"><b>基準年</b>：</td> </tr> <tr> <td>(事業全体) 1.1</td> <td>(残事業)/(事業全体) 173/427億円</td> <td>(残事業)/(事業全体) 470/470億円</td> <td>平成29年</td> </tr> <tr> <td>(残事業) 2.7</td> <td>(事業費：100/353億円) 維持管理費：73/73億円</td> <td>(走行時間短縮便益：377/377億円) 走行経費減少便益：64/64億円 交通事故減少便益：29/29億円</td> <td></td> </tr> </table>	<b>B/C</b> ：	<b>総費用</b> ：	<b>総便益</b> ：	<b>基準年</b> ：	(事業全体) 1.1	(残事業)/(事業全体) 173/427億円	(残事業)/(事業全体) 470/470億円	平成29年	(残事業) 2.7	(事業費：100/353億円) 維持管理費：73/73億円	(走行時間短縮便益：377/377億円) 走行経費減少便益：64/64億円 交通事故減少便益：29/29億円		
<b>B/C</b> ：	<b>総費用</b> ：	<b>総便益</b> ：	<b>基準年</b> ：											
(事業全体) 1.1	(残事業)/(事業全体) 173/427億円	(残事業)/(事業全体) 470/470億円	平成29年											
(残事業) 2.7	(事業費：100/353億円) 維持管理費：73/73億円	(走行時間短縮便益：377/377億円) 走行経費減少便益：64/64億円 交通事故減少便益：29/29億円												
<b>感度分析の結果</b> ：事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=0.96～1.3（交通量±10%）【残事業】交通量：B/C=2.4～3.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1～1.1（事業費±10%）      事業費：B/C=2.5～2.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.03～1.1（事業期間±20%）      事業期間：B/C=2.6～2.7（事業期間±20%）														
<b>事業の効果等</b> 事業の必要性及び効果														
①主要都市間の利便性向上 ・旭川市と稚内市間の所要時間が夏期で12分（冬期は15分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②救急搬送の安定性向上 ・宗谷管内及び上川北部地区から旭川市までの所要時間が短縮されるなど、高次医療施設への救急搬送の迅速性及び安定性向上が期待される。 ③物流の利便性向上 <水産品の流通利便性向上> ・宗谷管内から道内外へ出荷される水産品の流通利便性向上が期待される。 <乳製品の流通利便性向上> ・宗谷管内で生産された乳製品の流通利便性向上が期待される。 <青果物の流通利便性向上> ・名寄市等から道外へ出荷されるアスパラガス及びかぼちゃの流通利便性向上が期待される。 ④道路交通の安全性向上 ・並行現道の通過交通の分散化が見込まれ、交通事故の減少など道路交通の安全性が期待される。 ⑤観光地への利便性向上 ・道北圏の主要な観光地への利便性が向上し、圏域間の観光地群のネットワーク化が図られ、インバウンド誘客等による広域観光の活性化が期待される。 ⑥日常生活の利便性向上 ・上川北部地域から旭川市への所要時間が短縮され、地域住民の日常生活の利便性向上が期待される。 ⑦地域プロジェクト推進の支援 ・冬季スポーツ合宿及び大会時の名寄市への所要時間の短縮や利便性向上が図られ、地域プロジェクトの推進を支援。 ⑧CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ・自動車からのCO <sub>2</sub> 排出量2,304(t-CO <sub>2</sub> /年)の削減が期待される。														

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

名寄市、旭川市など7市4町の首長等で構成される「北海道開発幹線自動車道道北建設促進期成会」等から、整備促進の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による道央圏と道北圏の連絡強化により、地域間交流の活性化や高次医療施設へのアクセスの向上が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はありません。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめ、より一層の徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成9年11月 名寄美深道路 名寄IC～名寄北IC開通
- ・平成15年3月 名寄美深道路 名寄北IC～智恵文南入口開通
- ・平成15年10月 北海道縦貫自動車道 和寒IC～士別剣淵IC開通
- ・平成16年11月 豊富バイパス 豊富サロベツIC～豊富北IC開通
- ・平成17年9月 士別市、朝日町が合併し、士別市が誕生
- ・平成18年3月 枝幸町、歌登町が合併し、枝幸町が誕生
- ・平成18年3月 名寄市、風連町が合併し、名寄市が誕生
- ・平成18年11月 名寄美深道路 智恵文南入口～智恵文IC開通
- ・平成22年3月 名寄美深道路 智恵文IC～美深IC開通
- ・平成22年3月 幌富バイパス 幌延IC～豊富サロベツIC開通
- ・平成25年3月 名寄美深道路 美深IC～美深北IC開通
- ・平成25年6月 シーニックバイウェイ北海道「天塩川流域ミュージアムパークウェイ(候補ルート)」登録
- ・平成28年6月 広域観光周遊ルート形成計画「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」認定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に工事着手して、用地進捗率54%、事業進捗率57%となっている。

(平成29年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

切土法面保護工、舗装工等の見直し。引き続きコスト縮減対策に取り組んでいく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

